

事務事業評価シート

1 基本情報

		事業番号	010103010200		事業の種類	4
年度	27	事務事業名	子育て家庭支援訪問事業		予算事業名	子育て家庭支援訪問事業 優先度 4
まちづくり目標	健やかな成長と人間力をのばせるまち		担当部局名 健康福祉部子育て支援室			
施策名(中)	援助が必要な子どもと家庭を支援する		担当課長	平松 孝夫	担当者名	森中 江美
取組み事項	子どもへの虐待防止対策を推進する		実施計画への記載		主要事業の指定	
実施計画事業名						
根拠法規及び関連法規						
事業の目的	誰のために(具体的に)	2歳の幼児のいるすべての家庭				
	誰(何)を対象として	児童及びその養育者				
	意図(どのような状態にしたいのか)	育児期における親の孤立感を軽減し、育児不安を解消し、虐待を未然に防げるよう、子どものみならず保護者も含めた家庭への支援につなげる。				
事業の全体年度	事業着手年度			(年度)	事業完了予定年度	(年度)

2 事業の概要 Do

実施の概要	2歳の幼児のいるすべての家庭を訪問し、親の様々な不安や悩みを聞き、支援が必要なサービスにつなぐとともに、関係機関での継続的な支援が可能となるよう総合的な子育て支援体制を整備する。					
活動実績	項目	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度計画
	訪問件数	件	211	224	233	240
	要支援等対象児童	延べ人	85	62	75	70

3 投入資源

会計区分		一般会計				事業費単位:円			
インプット指標		25年度決算	26年度決算	前年比	27年度決算	前年比	28年度予算	前年比	備考
人員	部長以上職員	0.026	0.027	104	0.026	96	0.026	100	
	参事以下職員	0.104	0.107	103	0.104	97	0.093	89	
	臨時職員			-	0.000	-	0.000	-	
支出内訳	人件費	1,116,778	1,187,569	106	1,123,382	95	1,047,240	93	
	事業費	633,000	672,000	106	696,000	104	757,000	109	
	合計	1,749,778	1,859,569	106	1,819,382	98	1,804,240	99	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金	633,000		0		-		-	
	市債			-		-		-	
	その他			-		-		-	
	一般財源	1,116,778	1,859,569	167	1,819,382	98	1,804,240	99	
合計	1,749,778	1,859,569	106	1,819,382	98	1,804,240	99		

※ 事業の進捗状況

項目		25年度	26年度	27年度	28年度	事業費単位:円
全体進捗率	事業費累計					
	進捗率					

4 評価指標

【有効性】

指標名1		要支援等対象児童割合							
指標説明(式)		要支援等対象児童/訪問児童							
指標単位	区分	25年度	26年度	前年比	27年度	前年比	28年度(計画)	前年比	備考
%	目標	20	30	150.0	29	96.7	29	100.0	
	実績	40	28	70.0	32	114.3			
指標名2		関係機関への引き継ぎ件数							
指標説明(式)									
指標単位	区分	25年度	26年度	前年比	27年度	前年比	28年度(計画)	前年比	備考
件	目標	70	70	100.0	70	100.0	70	100.0	
	実績	85	62	72.9	75	121.0			

【効率性】

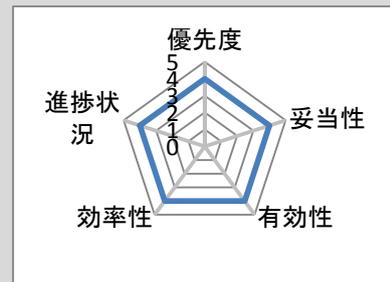
指標名1									
指標説明(式)									
指標単位	区分	25年度	26年度	前年比	27年度	前年比	28年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	25年度	26年度	前年比	27年度	前年比	28年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(27年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	担当課評価
妥当性	目的の妥当性	育児期における親の孤立感を軽減し、虐待を未然に防ぐことで、妥当である。	4
	市民ニーズ	親の様々な不安や悩みを聞き、支援が必要な家庭については、今後の支援の在り方を考え、必要なサービスにつなぐことができる。	
有効性	成果目標(改善)達成度	1歳半健診と3歳児健診との間に訪問することで要支援家庭を的確に把握でき、虐待の未然予防や早期発見につながった。	4
	市民サービス	要支援対象児や家庭の場合には、フォローに繋がりがやすい。また定期的にチェックできた。	
効率性	執行体制の効率性	児童家庭支援センター「すずらん」に業務委託し効率的に実施できている。	4
	手段の最適性	心理士など専門職の相談員が訪問することで支援が必要な家庭を的確に発見し、関係機関と支援の方向を協議しながら、適切なサービスにつなげた。	
進捗状況	事業計画に対する進捗状況	概ね計画通りに進捗している。	4

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	市民サービス	要支援対象児や家庭に、細かな支援ができていますか。



配点	32.5
総合評価	26

7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた28年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	成果の向上	その後のフォローについて、定期的なチェック、アウトリーチにより親の負担軽減を図る。

(2) 29年度以降の改革改善内容

区分	内容				
重点事項	訪問結果に基づき関係機関との十分な連携を行い、育児期の親の育児不安の解消、虐待の未然防止を図る。				
見直事項					
新規事項					
方向	継続	成果	拡大	総コスト	維持